

がんばろう 南三陸町 復興第80号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所 千葉総合印刷株式会社 本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46)3069 FAX(46)3068 企画・編集 志津川広報センター

図書館・公民館の複合施設



公的施設最後の復旧事業

震災9年目の平成31年4月25日に、南三陸町生涯学習センター開所式がおこなわれ、町・建設関係者総勢100名を超える出席者の元でオープンを祝った。

平成29・30年度事業で、南三陸町の施設の震災復旧事業がこれで最後となる。総工費が約12億円で、復興交付金が6.7億円で地方債が2.5億円となった。その他にはシンガポール赤十字の寄付金が約4千万円と教育施設復旧補助金3.1億円が含まれている。

南三陸産材(FSC)をふんだんに使い、ぬくもりあふれる複合施設で、全体プロジェクト認証の受賞も町長より伝えられ、町の本庁舎同様の認定を受けた。

佐藤町長の挨拶では、東側に図書館施設があり今後蔵書は10万冊を目標にする。西側には公民館施設を配置し、「コミュニティの再構築に寄与できる施設」と述べた。三浦議長は「共助の意識醸成に、多くの町民が集まり、やすらげる、くつろげる場に」と語った。



遊び心いっぱいの書棚

Advertisement for Yamana Mitsuetsu Fish Market opening at Mt. Utsunomiyama Park. Includes a map showing the location near National Route 45 and a phone number: 0220-34-8388.

南三陸町の小学校1年生に 広島から愛の福袋届く

震災後から南三陸町の明神崎荘さんを拠点として、石巻・気仙沼・高田に支援を続けている。国連NGO世界平和女性連合・広島第1連合が、南三陸町の5校の小学校1年生71人に、ノート等の学用品をつめた入学祝い品を届けてくれた。昨年からの震災後に南三陸町に生まれた小学校1年生への「愛の福袋活動」の第2弾としての活動として始めた。

南三陸町人口の推移

(平成31年1月末現在)

Table showing population trends for Nansai Town, Utsunomiya, Inaba, and Uta. Columns include Year, Nansai Town, Utsunomiya, Inaba, and Uta. Data points are provided for March 2018, December 2018, and March 2019, along with year-over-year changes.

(2019年2月の新聞記事より)

第89回南三陸福興市の ホタテ・ホヤまつり!

4月28日(日曜日)

福興市の恒例「餅まき」には、子供たちと大人たちが必死に餅や景品を取りあつた。子供たちは一番前で、色々な品々をレジ袋いっぱい拾い、大喜びで参加していた。参加された皆さんは笑顔に包まれた。



「ホヤ詰め放題」のコーナーには行列が出来ていた。子供たちも頑張り、大人も一生懸命に小さなビニール袋に、ホヤを無理矢理押し込んでいた。中ぐらいのホヤながら買えば最低でも1個100円はする。詰め放題は、この時期の目玉として大好評となっている。南三陸町のホヤ産地ならではの、大サービスのコーナーだった。私も先週、町内の魚屋さんで大きい物を買ったが、1個「200円以上」したが、やっぱり美味しい。



(ガラポンコーナー、大当たりの鐘にビックリ!! 予想外のプレゼントに子供が大喜び!!)

未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年) 11月の出来事 ~ 地元報道より ~

南三陸町

- ◆東日本大震災で被災した住宅を再建するための融資の申込件数を9月末まででまとめた。住宅再建が落ち着いてきたとみられ、申し込みは年々減少している。16年度は73件でピーク、昨年は22件、本年度は9月末現在で5件という状況である。
◆南三陸町議会(議員16人全員)は上京し、内閣府や復興庁、国土交通省、財務省に対して復興に関する要望書を手渡し、町の復興の現状などを伝えた。
◆秋の叙勲受賞者が発表された。元歌津町議会議員で南三陸町議会議員も務めた阿部建氏(78)が地方自治功労で旭日双光章、元南三陸町消防団副団長の山内敏裕氏(71)が消防功労で瑞宝単光章を受章する。
◆南三陸町のふるさと納税を寄付した人に対する返礼品を見直し、1日からリニューアル。今回は好みの返礼品を選べるカタログ形式に変更。
◆3日、南三陸町功労者表彰式・感謝状贈呈式が南三陸プラザで行なわれた。各分野で長年町の発展に尽力してきた11人を表彰、東日本大震災からの復興に貢献した2個人・1団体に感謝

- 状を贈り功績をたたえた。
◆ギンザケ養殖が盛んな南三陸町戸倉地区で、稚魚の搬入が始まった。約半年間志津川湾内のいけすで餌を食べて、脂の乗った魚体に育つ。稚魚の搬入量は2014年に震災前の120トンまで回復していて、今季の搬入も同量を運び入れる。
◆「南三陸町 de 芋煮会2018」が4日、南三陸町ハマレ歌津で開かれた。「南三陸海しょくにん」が芋煮などを振る舞った。地元食材を使った芋煮は、500食分を無料で配布した。
◆南三陸町役場の交流スペース・マチドマで、ラムサル条約に登録された志津川湾を紹介する企画展が、28日まで開かれている。映像コーナー、町ネイチャーセンター準備室、ラムサル条約の内容を伝える資料もある。
◆志津川高校の前校長山内松吾さん(62)が、古里南三陸町の小学生にボランティアで英語を教えている。今年7月に南三陸ジュニア・アカデミーを立ち上げ、南三陸町の小学5・6年生を対象に土曜日曜日に月3回開講している。今年3月志津川高校の校長を最後に退職、現在は気仙沼高校で英語の非常勤講師を務めている。
◆東京のNPO法人「音楽で日本の笑顔を」と南三陸町による被災地応援無料コンサートが10日、ベイサイドアリーナ文化交流ホールで開かれる。ソプラノ歌手の安田祥子さんをナビゲーターに、ピアニストやソプラノ歌手など地元コーラスグループも参加する。
◆「秋の火災予防運動」が9日から15日まで全国一斉に始まった。南三陸町では9日、南三陸消防署をはじめ町消防団、町婦人防火クラブ連合会などから約100人が参加して、町役場交流

- スペース・マチドマで出発式が行われた。
◆南三陸町の田東山山頂に通じる「行者の道」は11日で、今季の利用期間を終了する。区間内の木橋補修に伴うもので、本格的な降雪を前に補修工事を予定しているため、終了を前倒しする。
◆南三陸町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で10日、南三陸町少年少女ビニールバレーボール大会が開かれた。今回は5小学校から20チームが参加した。
◆11日町役場周辺を主会場に、南三陸町総合防災訓練が行なわれた。自衛隊の大規模災害訓練「みちのくアラート」とも連動して行われた。南三陸病院に運び込まれたケガ人や病人の具合に応じて優先度をつけるトリアージ訓練、消火訓練なども実施された。
◆南三陸町志津川の八幡川に架かる「志中大橋」が完成し、13日までに供用を開始。東日本大震災前からあった橋を架け替える形で整備され、高台に完成した住宅団地をつなぐ連絡道路の一部となる。
◆南三陸町は14日、不適正事務に関し、担当していた元職員に対し損害賠償を求めよう考えを明らかにした。弁護士と相談しながら詳細を検討している。
◆徳島県徳島市で、アニメイベントを開催しているNPO法人「マチ★アソビ」(徳島市)から16日、南三陸町に移動図書館が贈られた。来年1月から運行する。
◆南三陸町環境審議会が町役場で15日開かれ、家庭ごみの有料化導入について審議した。反対意見は出なかった。

(前ページよりの続き)

◆東日本大震災の復旧事業で大量に使用する生コンの供給不足を解消するため、県が設置した仮設プラント(南三陸町戸倉)が、年度内に稼働を終える予定。

◆秋の火災予防運動に合わせて、南三陸町防火管理者協会と危険物安全協会南三陸支部の防火・防災研修会が南三陸ホテル観洋で開かれた。南三陸消防署員による寸劇を初めて企画し、防火の大切さなどを考えさせた。

◆南三陸町行政区長連絡協議会が、岡山・広島などの被災地に町民から集めた総額184万円の義援金を贈った。

◆南三陸町の八幡川、水尻川のサケの捕獲作業が後半に入り、昨年を大幅に上回っている。河川で1千万粒を目安としている種卵の確保にはほど遠い状況。

◆本年度の「すばらしいみやぎを創る運動功績者」の表彰がホテルメトロポリタン仙台で行なわれ、南三陸町の伊里前契約会が団体の部で表彰を受けた。伊里前契約会は、1693年に結成し、325年にわたって地域に伝わる獅子舞を継承している。

◆15日から19日まで、東日本大震災の復興支援を通じて交流がある台湾を、南三陸町長、町

内の産業団体関係者が訪問した。南三陸病院、総合ケアセンター南三陸の建設費を寄付した中華民国紅十字会には、王会長に町長が感謝を伝え、開院から約3年が経過する病院の状況について報告した。

◆南三陸町は子供たちの熱中症対策として、町内全7小中学校の教室などにエアコンを設置する。国の補正予算に盛り込まれた交付金を活用すれば、町の負担が大幅に圧縮できると判断してのもの。

◆23日南三陸町志津川の八幡川で、町内の小学生がサケのつかみ取りを体験した。来年2月に行われる「KODOMOラムサール」のプレ企画として町が開催し、町内の4~6年生約20人が参加した。

◆南三陸町の志津川湾水系さけます増殖協会は、サケの人口ふ化放流事業で不足している種卵を確保するため、海産親魚を使った採卵を26日から始める。200万粒の確保を目指す。

◆宝塚歌劇団の元メンバーや南三陸町内の子供たちが出演する、エンターテイメントショーが南三陸町ベイサイドアリーナで24日開かれた。町内の幼稚園児ら約30人が参加し、子供たちが「桃太郎」になりきってミュージカルに挑戦した。

◆24日南三陸町ベイサイドアリーナで、電源が入らなくなった「ガラケー」と呼ばれる携帯電話

話を再起動させ、写真などのデータを呼び起こすイベントが行なわれた。内部に保存されている写真、データなどを確認し、写真は選んで無料でプリントアウトしてもらっていた。

◆町社協の高齢者生活支援施設「結の里」にごみ回収拠点を設け、町民からごみを持ち込んでもらい、資源化につなげる取り組みを行ない、協力した町民には「感謝ポイント」が付与された。併設するカフェの利用、あさひ幼稚園へのもみの木寄贈が盛り込まれている。27日アマタや地元事業所など6社から、あさひ幼稚園にもみの木が贈られた。

◆ラムサール条約に登録された南三陸町で、県内で条約に登録されている3湿地の関係者との意見交換会が初めて開かれた。各地域の課題を共有するなどし、今後連携を図っていくことを確認した。

◆南三陸町図書館が新施設への移転準備のため業務を30日で終了。新図書館は志津川公民館と合築する生涯学習センターとして建設中。災害公営住宅を巡回している移動図書館は休館中も継続する。

◆南三陸町道の駅整備推進協議会が29日開かれた。南三陸さんさん商店街北側のエリアで、21年度オープンを目指して計画づくりを進めている。町が個別に基本計画を策定している震災伝承施設などの整備も盛り込んだ。



厚い志を持って 平成31年3月9日 記憶に残る卒業式

第72回志津川中学校卒業式が3月9日開催され、3クラス86名が志中の学舎から旅立った。今年度の卒業生で、「第12093号」となった。

志中の生徒憲章には「蒼天(そら)のように高い志をもち 知識を身につけよう」「海洋(うみ)のように広い心を持ち 互いを思いやろう」「里山(やま)のように大きく たくましい体をつくろう」「イヌワシの翼のように 南三陸(ふるさと)の絆を広げよう」があり、これからの人生で憲章を胸に次のステップに進む。

三浦警校長の式辞では、「自分の未来を切り開く決意を示す場」「人生の1.6%が中学校時代、自分たちの人生にいどんでほしい」「学ぶ事から逃げていないで進んで学び、自分自身を磨いてください」と語り掛けた。

祝辞では三浦議長が、大震災の中での中学校生活は「苦境にたって、生きる力となった」そして「将来に期待を持っている」と、南三陸町の復興の力となって欲しいと語った。

送辞には三浦和佳子さんが立ち、「苦しい時に寄りそう心」を教えてくれたと涙ながらに話し、答辞では佐々木康佑君が3つの小学校から集まり、同級生として話ができるようになったと言う。そんな中で「部活動が私たちを成長させてくれた」と3年間の想いでの言葉に、涙する卒業生の姿があった。「支えあおう、また今日!」と、答辞を結んだ。

卒業記念合唱では、卒業生が「群青」を、全校合唱では「旅立ちの日に」で、平成最後の志中卒業式をしめくくった。

南三陸町人口の推移

(平成31年3月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年3月	13,141	5,374	1,428	2,006	4,333
31年3月	12,837	5,249	1,405	1,936	4,247
30年3月からの増減数	-304	-125	-23	-70	-86

(2019年4月の新聞記事より)



志高創立95年に69名の卒業生 祝 卒業証書授与式 平成最後の卒業式

平成30年度のビジネス科21回生・普通科71回生の卒業証書授与式が平成31年3月11日に開催され、ビジネス科17名・普通科52名の総計69名が、平成最後の卒業生として巣立った。葛西利樹学校長の式辞では、「夏の高校野球大会では、しおかせ球場で足のケイレンに耐え必死に白球を追った」と、部活動の取り組みを伝えた。「友は一生の宝物」「いつもチャレンジャー」であって欲しいと語った。

来賓式辞では、佐藤町長が「20世紀の時代の変わり目に生きて来た皆さん!」と話し、苦しい時を迎える事もある。「友だちのまなざしを思い出しなが、分かち合える人間になってほしい」と語った。

送辞では後藤君が「先輩たちには不安と期待があると思いますが、高校での生活が先輩たちの支えになる」と話した。答辞では歌津地区の三浦裕太さんが「ワクワクした達成感を感じる。どんな時でも全力で向い、クラスみんなで達成してきた。これからは沢山の恩返しをしたい」と述べた。

最後の「校歌斉唱」はきつと感慨深いものだったろう。進路は進学が男女で30人、就職は31人で、自営の後継者などには4人がいた。



卒業証書は大切な証 44名の志小卒業生 次の段階へ

平成最後の志津川小学校の44名の6年生が、大震災発生後の厳しい生活環境の中で、日々変わる南三陸町で家族と多くの方々の支えの元、この卒業という慶き日を迎えた。志津川小学校の第9570号から9613号の卒業生を送り出した。

齊藤明校長先生の式辞では、第一声に「卒業証書は大切な証です。」と述べた。くろしお宣言で「いじめのない学校にしよう」と取り組んできた。児童の学ぶ姿の発表に「南三陸町のまちづくり」があり、「南三陸町の未来の夢」を発表した。「自分が目指す目標をしっかり抱いてほしい」と話した。結びに「かけがえのない宝物を本日お返します」「私の心の中に良き教え子として輝き続けます」と締めくくった。

町長の祝辞(代読)では、「たのもしい成長となりました」「がんばる力に家族や地域の方々と先生方や仲間、感謝の言葉「ありがとう」を忘れないで下さい。」と語った。

志津川中学校の氏家さんが「先輩からのメッセージ」で、「一年生から努力をする事が大切です。」「自分一人でかかえず、周囲の皆さんをたよってください。」と中学校生活のアドバイスを送った。

旅立ちの言葉では、「夢に向かってガンバります。」「大好きな志津川小学校さようなら。」と会場の皆さんに語った。

志津川小学校ではいじめをたくすために、「くろしお宣言」がある。1.相手の気持ちを考え仲良くします。1.あつたか言葉を使います。1.友達の良い所を見つけます。1.困っている人がいたら声をかけます。と4つの活動に取り組み実践している。



各スポーツ団員が目標を語る 南三陸町スポーツ少年団結団式

4月11日午後7時より南三陸町スポーツ少年団の決団式が、総合体育館(アリーナ)で開催された。会場には12のスポ少・教室の団員が約200名を超え、指導者・教育委員会・父母が集まり、今年度の活動へのスタートを切った。

副本部長の挨拶では、「子供たち・父兄・先生方は三身一体である」と述べ、新齊藤教育長の「激励のことば」では、「自分の大好きなスポーツで運動能力を高める事が素晴らしい結果を生む」と話した。

子供たちの今年の抱負では、「感謝の気持ちで昨年より一勝でも多く勝ちたい」「6年生なので5年間の練習の成果を出し、町の大会で勝ちたい」など、12団体の代表が力強く目標を語った。